

平成27年度 武蔵野市図書館事業 その他中長期目標

No.	中長期目標	取組予定	図書館基本計画 関連施策
		取組結果	
図書館施設・機能の充実			
1	他の公共施設との連携等により、図書館から一定の距離がある地域へのサービス提供、来館が困難な人へのサービス提供を充実させ、市内在住者の図書館貸出利用登録割合を40%以上にします。	自動返却機については、引き続き、定期点検とデータの収集、解析を進め、安定運用と改善に努めます。予約棚については、CD、DVDの読み取り率の向上を図るため、現状で最も効率よく読み取る置き方への改修を行います。いずれも結果は、報告書にまとめます。	図書館業務システムの再構築 貸出・閲覧サービスの利便性の向上 一般利用者向けサービスの充実
		現行システムの安定的な運用を図るとともに、プレイス開館以後の予約数、搬送資料数の大幅な増加、休館日や開館時間が異なることによる曜日ごとの業務量の増減等を考慮し、予約サービス内容の変更を試行します。	図書館業務システムの再構築
		現行システムの安定的な運用を図るとともに、新システムの選定及び入替を支障のないよう実行します。	図書館業務システムの再構築
2	すべての利用者が使いやすい安全な施設を提供するため、各館の提供するサービスに応じた施設の整備・改修を進めます。書庫の集密化等により、中央図書館の蔵書可能数を平成26年度までに70万冊とします。	施設の老朽化に対応した工事を実施します。 【中央図書館】事務室、会議室等ガスヒートポンプ更新保全工事、空調機内部断熱材張替工事	既存施設の整備・改修
		書庫集密化工事を引き続き実施します。	既存施設の整備・改修
安心して利用できる図書館環境の構築			
3	利用者の個人情報及びプライバシーを保護します。	個人情報とプライバシー保護に関する研修を職員に対して継続的に実施します。全職員に対する定期研修を年1回、新規配属職員に対する研修を随時実施します。	個人情報とプライバシーの保護
4	図書館の危機管理体制を定期的に見直しながら、より強固なものへ構築していきます。	実際のリスク発生を想定した訓練として、職員防犯訓練を年1回実施します。	危機管理体制の構築
		危機管理マニュアルに基づき、職員防災訓練を年1回実施します。	危機管理体制の構築

質の高いサービスを支える体制整備			
5	質の高いサービスを提供する基盤として、図書館運営を担う人材育成を図ります。	「武蔵野市立図書館人材育成計画」に基づき、内部研修（職員向け6回、嘱託職員向け4回）を実施し、職員を外部研修に派遣します。	職員の人材育成
		「研修個人シート」を作成、活用し、各職員の研修参加状況の把握と意識の向上に努めます。	職員の人材育成
6	図書館が提供するサービスについて、見直しと向上を図る評価システムを構築、運用し、評価を実施していきます。	図書館基本計画との連動性を高めるための評価システムの見直しを行い、新システムのもと、目標への取り組みに対する評価を円滑に実施し、市民へ公表します。	評価システムの構築
市民や関係機関と連携したサービスの充実			
7	武蔵野市立図書館だけではまかないきれないサービスや情報を市民ボランティアや市民団体との連携により、幅広い利用者に提供していきます。	市民ボランティアとの協働の可能性を引き続き研究します。ブックスタート事業へのボランティアの活用について検討し報告します。	市民との協働
8	武蔵野市立図書館だけではまかないきれないサービスや情報を他の図書館等関係機関との連携により、幅広い利用者に提供していくとともに、図書館の情報を行政部局や市議会で活用できるよう体制整備を進めます。	課題解決テーマ展示資料リストの関係各課への送付や各課主催事業に関連した図書の展示等の連携により、各課が、図書館資料や提供情報等を業務に活用できるように努めます。	他の図書館施設、行政部局との連携・協力
9	市内の民間事業者や文化施設との連携を進め、地域振興の推進や地域文化の創造・発展を図ります。	各事業者、団体等の活動について情報収集に努め、資料展示に活かします。また、連携・創造の取り組みを実施します。	その他の機関との連携協力

図書館の活用と情報収集の支援			
10	様々な活動を行っている市民団体等と連携しながら、活動に有益な情報の提供や、活動記録の蓄積を進めます。	図書館関係団体や地域の文庫活動に対して、引き続き支援を行っていきます。	市民活動支援機能の充実
市民の学びと課題解決の支援			
11	利用者の多様な学びを支援するため、利用者が必要とする情報の収集、提供、発信を積極的に行います。	武蔵野市に関する新聞記事見出しデータベースの更新に努め、27年度中に1996年7月～1997年6月分及び2015年8月分までを公開します。	学びを支える情報の収集、提供、発信
		契約データベース等による幅広い情報提供を行います。データベースの内容や利用状況、ニーズを確認し、一部データベースを新規データベースに変更する等の見直しを行います。	学びを支える情報の収集、提供、発信
		パスファインダー「おしえてむさしー武蔵野市に関する調べ案内」を作成してWeb公開し、紙媒体でも発行します。	学びを支える情報の収集、提供、発信
		HP「武蔵野市に関するレファレンス事例集」の更新を行います。公開中の事例については、順次、再調査を行います。新規事例も作成します。	学びを支える情報の収集、提供、発信
12	利用者の抱える課題に応じた情報を収集し提供するほか、これらの情報を効率的に利用できるよう、図書館資料の検索性を向上させます。また、利用者を対象としたデータベース検索講座等を実施し、利用者の情報リテラシー能力向上を図ります。	昨年度より引き続き、中央図書館で「課題解決支援テーマ展示」を年10回以上実施するとともにブックリストをHPでも公開し、利用者が幅広い情報や資料を入手できるように努めます。	課題解決の支援
		利用者を対象としたデータベース検索講座等を実施します。	課題解決の支援

利用対象者別の図書館サービスの充実			
13	子どもの読書習慣を定着させる事業やサービスの拡充を図ります。小中学生の1か月の平均読書数について、平成22年度比の10%増を目指します。	ブックスタート事業の継続実施及び乳幼児向けのおはなし会や幼児小学生向けおはなし会、保護者向けの講演会、こどもまつり、読書の動機づけ指導、子ども文芸賞等の子どもの読書習慣の定着を図る事業を実施します。	児童サービスの充実
		武蔵野プレイスの青少年活動支援機能との連携を継続して図ります。近隣中学・高校の図書委員会との交流や青少年のフロアでのポップ作成などの活動を行います。	ヤングアダルト向けサービスの充実
		児童・ヤングアダルト資料について、引き続き収集と整備を進めます。	本に親しめる環境の整備
			ヤングアダルト向けサービスの充実
14	障害がある、日本語を母国語としない等により来館が困難、利用が困難な方に対するサービス体制を強化、拡充します。障害者用資料の利用率について、平成22年度比の120%を目指します。	視覚障害による活字図書の利用困難者に対し、音訳図書の貸出や対面朗読サービス等を引き続き実施します。	来館、利用困難者に対する利便性向上
		導入した電算システムをより有効活用していくためのPRを行い、利用者からも検索や予約等がスムーズに行えるような仕組みを継続して作っていきます。	来館、利用困難者に対する利便性向上
		視覚障害者や高齢者が利用しやすい大活字本の充実を図ります。	来館、利用困難者に対する利便性向上 シニア利用者に対するサービス
		障害者サービスのためのボランティア養成を継続します。	来館、利用困難者に対する利便性の向上